

## レビュー（施策の進捗状況及び今後の課題）

## 国際協力等を通じた水道分野の国際貢献

## 主要施策

- ・ 水道分野の国際貢献の推進
- ・ 国際調和の推進等我が国水道の国際化

目標の達成状況				
施策目標	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
水道分野の研修生受入れ数 10 年間で約 600 人	99 人	127 人	77 人	101 人
派遣専門家（長期＋短期）数 10 年間で約 400 人	28 人	27 人	23 人	20 人
すべての事業で指標を用いた業務改善を実施（PI 公表事業体数）	51 事業体	61 事業体	35 事業体	79 事業体（H19.2）
達成状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修生受入数は高い実績数で推移しているが派遣専門家の実績は低い状況。</li> <li>・ 指標を用いた業務改善を行っている事業体は少数に留まっている。（平成 17 年 1 月「水道事業ガイドライン（JWWA Q 100：：2005）」制定）</li> </ul>				
各種方策の進捗状況				
<p>《水道ビジョンに掲げられた方策の状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術協力案件の検討、養成研修の実施などにより、派遣専門家の養成、確保、海外研修生の受入を計画的に実施。【国／水道事業者／水道関係団体等】</li> <li>・ 水道事業ガイドラインが制定され、様々な業務指標を用いて水道事業体の特徴や問題点を把握することが可能となった。【国／水道関係団体】</li> </ul> <p>《水道ビジョン策定後に新規追加されてきた方策の状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 官民学の参画による水道分野の国際協力戦略に関する懇談会を開催し、課題の抽出及び今後の取組について検討を実施。【国／学識経験者／水道関係団体等】</li> <li>・ 開発途上国（ASEAN 等東南アジア）の水道分野における長期的な将来予測をするとともに、発展のシナリオを作成し、我が国の国際貢献の枠組みも視野に入れながら、水道産業界が開発途上国に対してどのように関与していき、市場に展開していけるかを検討中。【国／学識経験者／水道事業者／民間企業等】</li> <li>・ 世界水フォーラム等における情報発信を実施。【国／学識経験者等】</li> <li>・ O&amp;Mネットワークへの継続的財政支援及びコーディネーターとしての中心的取組を継続。【国】</li> <li>・ ISO/TC 224 活動に対して積極的に貢献し、本年その総会が日本で開催される予定。【国／水道関係団体】</li> <li>・ 社団法人日本水道協会検査制度見直し検討においては、国際化対応の視点を盛り込む方針で検討中。【国／水道関係団体】</li> <li>・ アジア・ゲートウェイ構想の最重要項目に水道事業の海外進出促進が盛り込まれるなど、水道事業の国際展開が重要政策として位置づけられた。【国】</li> </ul>				

## 総合評価

- ・ 海外研修生の受入れや派遣専門家については相応の実績が見られる。
- ・ 各種方策を推進するためには、水道産業界が、途上国等の諸外国に対し国際協力の枠組みも視野に入れて積極的に関与し、市場として展開可能となるような官としての支援体制確立が必要であるとともに、人材組織の拡充等により、国際協力に貢献可能な人材を継続的かつ安定的に確保可能な体制の確立が必要である。
- ・ 水道界において世界的な国際化が進展している状況であり、WHO、IWA等の国際機関やISO等の国際的活動により一層参加・貢献していくことが必要である。
- ・ 業務指標を用いた業務改善の必要性について、更なる啓発活動が必要である。

## 今後の課題

- これまで発展途上国に対する技術協力、政府開発援助は施設の整備に主眼が置かれていたが、施設の維持管理を、民間活用・人材育成を行いつつ長期的なスパンで実施するための具体策を検討することが必要ではないか。【国／水道事業者等】
- 我が国における人口減少、地方分権の流れや水道事業体における民間企業への業務委託等を考慮すると、水道事業体が主体となった従来の体制のまま国際協力を継続することに困難が生じることが予想され、水道分野の国際協力を支える国内体制の整備が必要ではないか。【国／水道事業者等】
- 国際機関、国際的活動、他国との連携、協力を一層強化するための取組が必要ではないか。また、取組にあたっては、相手国の経済発展に対応した水道事業の育成を支援する国際協力の在り方を検討する必要があるのではないか。【国／水道事業者等】
- 国内の水道界において、海外の知見、技術の積極的な活用等の国際化、海外展開を見据えた国際競争力の強化を図ることが必要ではないか。また、このために必要な予算の確保も必要ではないか。【国】
- 上記の課題等を踏まえ、アジア・ゲートウェイ構想に基づく措置について積極的な取組が必要ではないか。【国】
- 業務指標について国内でのより一層の活用やその有効利用方法の検討を進めるとともに、日本の指標が世界標準となるよう国際的な展開を進めていくことが必要ではないか。【国／水道事業者／水道関係団体等】
- 「地域水道ビジョン」の枠組みも活用し、各水道事業者等における水道事業特性等を踏まえつつ、国際協力や業務指標を用いた業務改善に係る適切な施策目標の設定、目標実現のための最適な実施方策・実施計画の検討、実施体制の構築、進捗状況の定期的レビューを着実に推進する必要があるのではないか。【水道事業者等】
- 水道事業者等における各種取組事例及び実績等に関する各種情報の収集・分析を行い、事業規模・特性に応じた対策導入に関する情報を水道事業者等に提供し、水道事業者等の更なる取組促進を支援するとともに、国際協力や業務指標を用いた業務改善の一層の推進を図り、施策目標の全国的な達成を実現するために必要な方策について検討する必要があるのではないか。【国】

# 施策の進捗状況及び今後の課題(方策・主体別整理)

## 国際協力等を通じた水道分野の国際貢献

各種方策の進捗状況及び今後の課題		評価軸		規制軸		政策誘導軸		計画軸		連携軸	
		国	都道府県等	民間企業	水道関係団体	国	都道府県等	民間企業	水道関係団体	国	都道府県等
・ミレニアム開発目標達成に向けた途上国における水道事業の運営基盤の確立支援 ・国際協力に貢献可能な人材を継続的かつ安定的に確保											
【進捗状況】	・派遣専門家については、技術協力案件の検討が進められているとともに、養成研修を計画的に実施するなど人材の確保が図られ、派遣人数に相当の実績が見られる。 ・海外研修生については、水道事業者等による受け入れ態勢の整備が図られ高い実績数で推移している。										
【課題】	・これまで発展途上国に対する技術協力、政府開発援助は施設の整備に主眼が置かれていたが、施設の維持管理を、民間活用・人材育成を行いつつ長期的なスパンで実施するための具体策を検討することが必要ではないか。										
・国際協力に貢献可能な人材を継続的かつ安定的に確保 ・諸外国や国際機関との連携による国際調和											
【進捗状況】	・開発途上国の水道分野における長期的な将来予測を実施するとともに発展のシナリオを作成し、水道産業界が開発途上国に対してどのように関与していき、市場として展開していけるか検討中。 ・世界水フォーラム等における水道分野に関する情報発信を実施。 ・O&Mネットワークへの継続的財政支援及びコーディネーターとしての中心的取組を継続。 ・ISO/TC224活動に対して積極的に貢献し、本年その総会が日本で開催される予定。 ・アジア・ゲートウェイ構想の最重要項目に水道事業の海外進出促進が盛り込まれるなど、水道事業の国際展開が重要政策として位置づけられた。										
【課題】	・これまで発展途上国に対する技術協力、政府開発援助は施設の整備に主眼が置かれていたが、施設の維持管理を、民間活用・人材育成を行いつつ長期的なスパンで実施するための具体策を検討することが必要ではないか。 ・水道事業者が主体となった従来の体制のまま国際協力を継続することに困難が生じることが予想され、水道分野の国際協力を支える国内体制の整備が必要ではないか。 ・国際機関、国際的活動、他国との連携、協力を一層強化するための取組が必要ではないか。 また、取組にあたっては、相手国の経済発展に対応した水道事業の育成を支援する国際協力の在り方を検討する必要があるのではないかと。 ・国内の水道界において、海外の知見、技術の積極的な活用等の国際化、海外展開を見据えた国際競争力の強化を図ることが必要ではないか。 また、このために必要な予算の確保も必要ではないか。 ・アジア・ゲートウェイ構想に基づく措置について積極的な取組が必要ではないか。										
・水道事業者や水道関連企業の国際競争力の獲得											
【進捗状況】	・水道事業ガイドラインが制定され、様々な業務指標を用いて水道事業者の特徴や問題点を把握することが可能となった。										
【課題】	・業務指標について国内でのより一層の活用やその有効利用方法の検討を進めるとともに、日本の指標が世界標準となるよう国際的な展開を進めていくことが必要ではないか。										

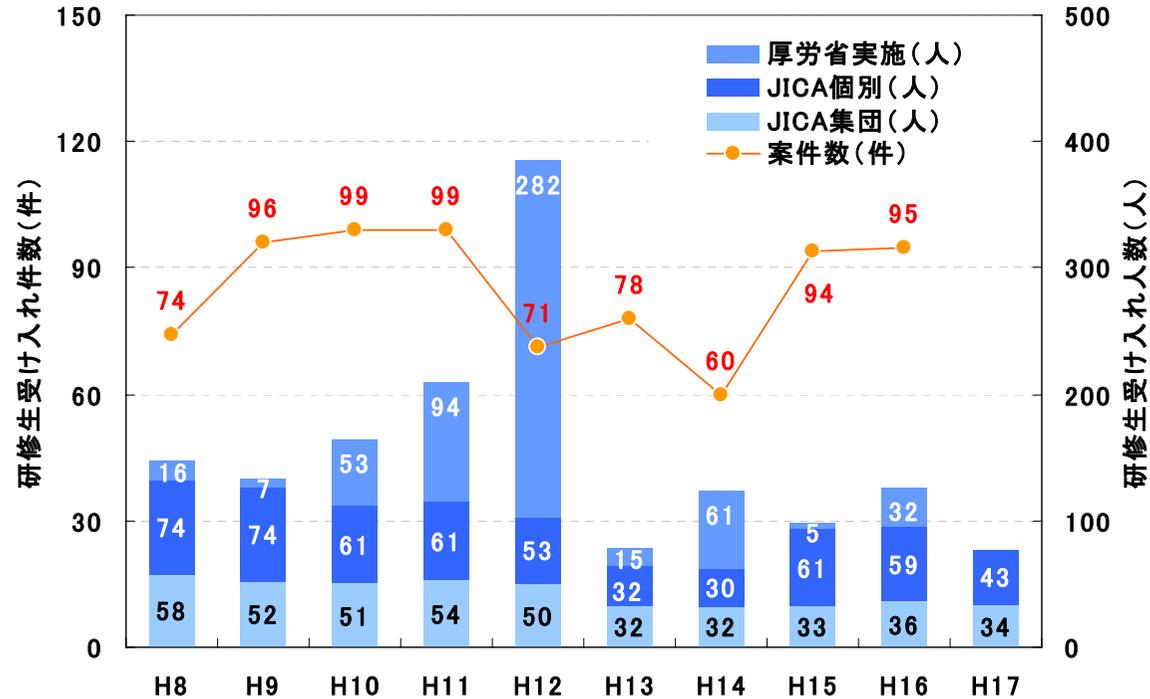
実施済みまたは、継続中  
 今後実施予定  
 今後の課題・問題点

# レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

## 【施策目標】

海外からの水道分野の研修生を、ODAベースで今後10年間で約600人受け入れる。

## ○研修生受け入れ実績



年度(平成)		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
案件数(件)		74	96	99	99	71	78	60	94	95	
研修生受入人数(人)	厚生労働省実施研修	16	7	53	94	282	15	61	5	32	0
	JICA集団研修	58	52	51	54	50	32	32	33	36	34
	JICA個別研修等	74	74	61	61	53	32	30	61	59	43
	合計	148	133	165	209	385	79	123	99	127	77

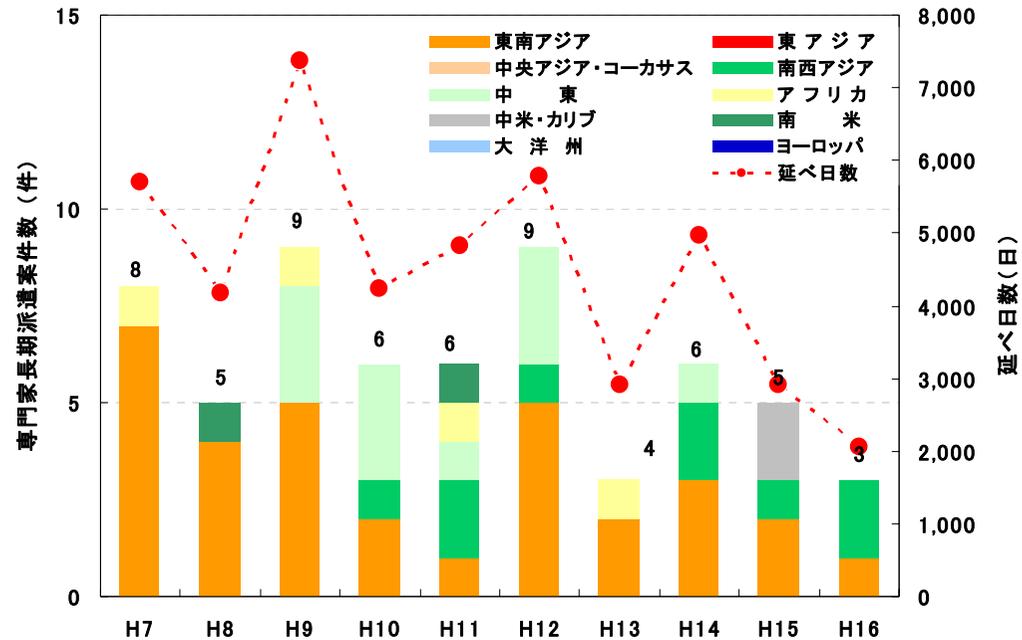
出典：厚生労働省健康局水道課

# レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

## 【施策目標】

**発展途上国への派遣専門家(長期+短期)を、今後10年間で約400人派遣する。**

### ○長期派遣専門家 派遣実績



年度(平成)	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
東南アジア	7	4	5	2	1	5	2	3	2	1	32
東アジア											
中央アジア・コーカサス											
南西アジア				1	2	1		2	1	2	9
中 東			3	3	1	3		1			11
アフリカ	1		1		1		1				4
中米・カリブ									2		2
南 米		1			1						2
大 洋 州											
ヨーロッパ											
合 計	8	5	9	6	6	9	4	6	5	3	61

(案件数)

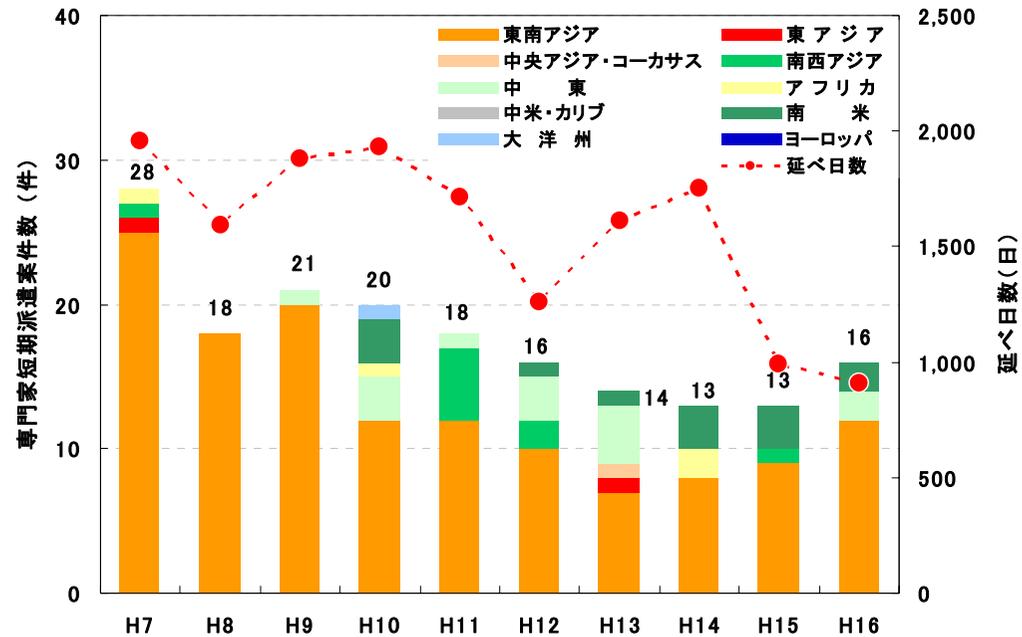
出典：厚生労働省健康局水道課

# レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

## 【施策目標】

発展途上国への派遣専門家(長期+短期)を、今後10年間で約400人派遣する。

### ○短期派遣専門家 派遣実績



年度(平成)	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
東南アジア	25	18	20	12	12	10	7	8	9	12	133
東アジア	1						1				2
中央アジア・コーカサス							1				1
南西アジア	1				5	2			1		9
中東			1	3	1	3	4			2	14
アフリカ	1			1				2			4
中米・カリブ											
南米				3		1	1	3	3	2	13
大洋州				1							1
ヨーロッパ											
合計	28	18	21	20	18	16	14	13	13	16	177

(案件数)

出典：厚生労働省健康局水道課

# レビュー（国際協力等を通じた水道分野の国際貢献）

## 【現 状】

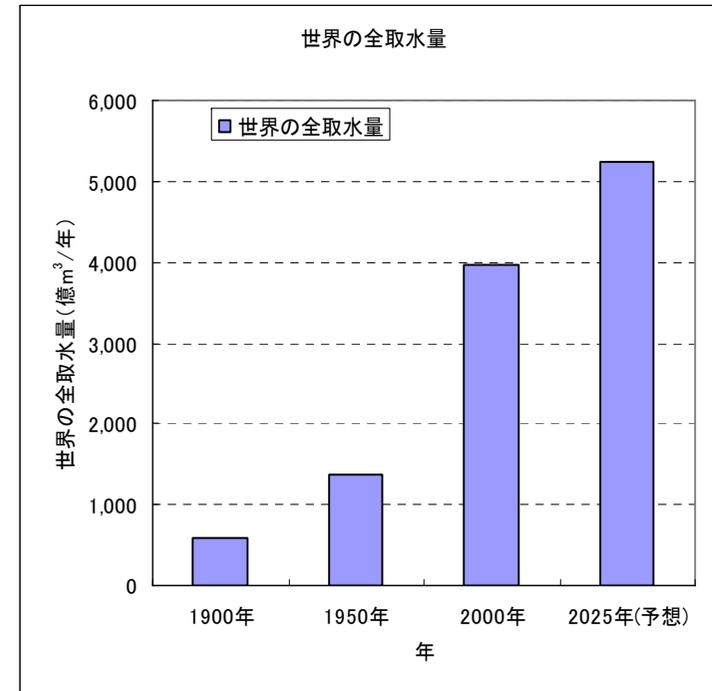
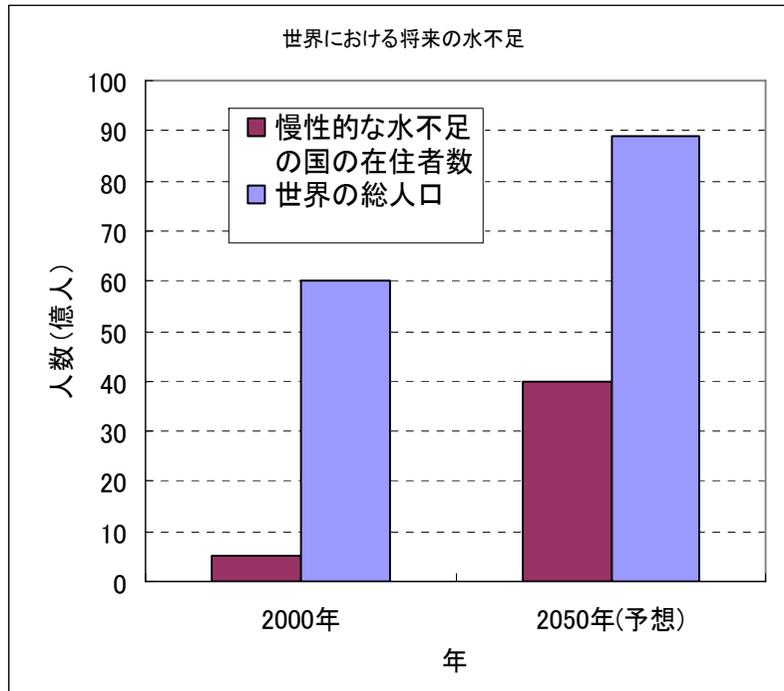
### ○世界における水不足の状況

世界における将来の水不足 (単位: 億人)

	2000年	2050年(予想)
世界の総人口	60	89
慢性的な水不足の国の在住者数	5	40

増大する水需要 (単位: 億m<sup>3</sup>/年)

	1900年	1950年	2000年	2025年(予想)
世界の全取水量	579	1,382	3,973	5,235



出典: 水の世界地図(平成18年1月、沖大幹 監訳)より厚生労働省で加工